

会 議 録

会議の名称	第4回西東京市図書館計画策定懇談会
開催日時	平成30年7月10日（火） 午後3時から午後5時
開催場所	中央図書館会議室
出席者	【委員】松尾委員、島委員、西村委員、山口委員、鈴木委員、藤澤委員、武田委員、上田委員、攝賀委員、松嶋委員、中川委員（館長）、司城委員（副館長） 【事務局】奈良庶務係長、西村ひばりが丘図書館地域館長
傍聴人	1名
議 題	第1 図書館計画（案）について 第2 その他
会議資料の名称	資料1 第3回懇談会意見を含めた分野別事業
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録

会 議 内 容

第1 図書館の計画（案）について

- 座長 前回の会議の確認を行いたい。
- 委員 委員提出資料説明。
前回の会議の中で出てきたユニバーサルサービスの考え方について了解を得ておいた方がいいと思うので、追加説明をしたい。
ユニバーサルデザインは、健常者と障害者、子どもとお年寄りなど、差を設けることなく誰でもが利用できるという視点。また、認知症については、超高齢化社会が進み、さらに認知症の人が増えていく中で、介護者ではなく認知症本人の方も利用者としてきちんと捉えていくことが必要。そこにユニバーサルサービスという考え方が役に立っていくのではないかと思う。
- 委員 ユニバーサルデザインは全ての人に使えるものにしていこうという考え方はわかるが、図書館において、今までのハンディキャップサービスに置き換えるとなると、ユニバーサルサービスという言葉には違和感がある。
- 委員 大事なのはユニバーサルデザインの考え方のことで、ユニバーサルサービスという言葉がまだ熟していないのであれば、ユニバーサルデザインによるサービスといってもいい。障害がある人へのサービスという視点ではなく、誰もが利用できるサービスという視点で誰もが使用しやすいサービスという考え。
- 委員 図書館でのハンディキャップサービスは、図書館利用に困難のある人へのサービスという考え方。重いものが持てない妊婦への宅配などもサービスの一環であるので、障害者だけが対象のサービスではない。
- 委員 言葉にこだわる訳ではなく、利用困難な人へ寄り添ったサービスという考え方で、障害者を切り分けるのではなく、もっと大きな枠で考えた方がいいのではないか。多文化サービスも、ハンディキャップサービスではなく、共生というキーワードだと思う。
- 座長 大きな枠というのは、ユニバーサルデザインの考えに基づき、健常者も障害者も、子どももお

年よりも皆が同じようにサービスを受けられるという考えでよろしいか。

- 委員 今やっていることと大きく違う形で展開する必要があるかはわからないが、考え方として将来構想や将来計画としては、そのような方向性を出していてもいいのではないか。
- 委員 困っている人からはなかなか発信はしてくれないと思うので、ユニバーサルデザインに基づくサービスを行うということがわかるような形にしていく。
- 委員 図書館や行政からそのような姿勢を示していった方がいい。
- 委員 人種・国籍などありとあらゆるものを乗り越えて、健常者でも障害のある人でも皆が同じサービスを受けられるというのは、図書館だけでなく世界の認識である。個人的にはハンディキャップサービスより、ユニバーサルサービスの方が馴染む。
- 座長 土台にユニバーサルの考え方があって、その上に各サービスがあるが、西東京市のサービスは利用対象者別になっており、ユニバーサルは、対象者別では括れない。西東京市の図書館のサービスが、ユニバーサルサービスに置き換えられるかどうかは難しいが、ハンディキャップサービスについては、わかりやすい名称に変えたほうが良いというまとめでいいか。
次に、7月6日の世田谷区立中央図書館の視察の感想を伺いたい。
- 委員 参考になった点は、図書館のビジョンを基に、基本理念・基本方針・具体的な施策の方向性、その下に、行動計画・重点計画プロジェクトがあり、体系的に進めているのが参考になった。もう一点は、大人の学習。大人の学びを豊かにする図書館という基本方針のもとで、利用者による学習活動発表の実施が興味深かった。前回、副座長の情報発信の場としての図書館という意見に賛成で、今後の計画に入れたほうが良い。世田谷区のビジョンの中で、大人の学びを豊かにする図書館として「ラーニングコモンズ」とある。世田谷区では、計画の最初からそのような視点で考えられている。
- 委員 世田谷区の計画はわかりやすくみることができる。西東京市とは方針の立て方も違うので、同じにする必要はないが、関わっていない市民にも見やすいものにするといい。言葉をコンパクトにまとめることが大事。
- 座長 基本方針が4つあって、それに基づく計画が非常に見やすく、わかりやすいし、よくまとまっている。西東京市の組み立てに沿い、良いところを取り入れてまとめるといいのではないか。では、前回の続きだが、視察をふまえて、成人サービスからふりかえってすすめたい。
- 館長 大人の学びという視点に気づかされた。その中の「ラーニングコモンズ」については、大学図書館ではよく使われており、公共図書館でも持ち込み始めてきているが、わかりにくい。
- 委員 ラーニングコモンズは、資料を提供するだけではなく情報機器の利用や提供を含めて、勉強の場を提供する。学びそのものを総合的に支援するというかたちで、図書館内に限らず、学ぶための場所を大学の中に用意するという考え方。
- 座長 具体的なイメージは、学生がゼミなどの勉強の課題を議論しながら解決するために集まり、資料やインターネット等を使ったりして、図書館の中で議論する。
- 委員 フレキシブルに机やイスが移動できたり、ホワイトボードを用意したり。静粛な館内という考え方をなくし、静粛な場所と分けて、自由に議論できるスペースを図書館内に置く。必ずしも図書館内でなくても良い。学生が主体的な学びをする場所が必要という考え方。
- 委員 しかし、世田谷区でいう「ラーニングコモンズ」は、大人の学びのためである。
- 委員 ビジョンを考えた委員の中に、大学図書館に詳しい人がいたのではないか。
- 委員 「美の壺」というテレビ番組で、成蹊大学の図書館が取り上げられていた。限りなく図書館が公民館機能を付加していこうという内容だったが、イメージがわかる。
- 副座長 公共図書館では、中高生が集団で学習するためのスペースは考えられてきているが、大人のための学習については、具体的にどのようなことができるか議論が必要。
- 委員 小学生がグループ学習できる場が、前から欲しいと思っていた。学校もなかなか利用できない中、図書館は安心していけるが、静かにしないといけないので、スペースが必要。
- 副座長 今までは図書館が一方向的に発信してきたが、利用者が発信する場としてのスペースやハード機器も必要。
- 座長 課題解決支援は、市民の課題を解決するための支援であり、ラーニングコモンズにつながるのではないか。
- 館長 大学図書館ではグループで使えるスペースや情報機器等の貸出も一般化しており、学生の学びを助長する施設。公民館は、グループ的な要素が強い。図書館はグループというより個人利用だとすると、グループ室というより個室的なものだが、大人や子どもが集団で図書館にきて利用するというのは発想としては面白い。

- 委員 保谷駅前図書館内にある部屋はどのようなものか。
- 館長 個人利用の学習室。図書館ではじめて設けたもの。
- 委員 成人が集団で使うというのは集会室のイメージがある。一般的に成人が集団で学習するという機会があるのか。
- 副座長 自分たちの町のことを数人で考えるという時に、情報や資料はあるが、議論する場も必要。資料があり、数人で議論できる場もあるという図書館は今までなかった。
- 委員 ビッグデータを利用して地域のことを考えるということなら、発表する場もあわせて提供するなどに発展するといい。
- 館長 最近の図書館では、サイレントルームなど、完全に音を遮断した静かな場所で読書する例があるが、それについてはどうか。
- 委員 ラーニングコモンズを考える時には、必ずでてくる。音なし部屋とかクワイエットルームなどにゾーニングして徐々に静かになっていく工夫がされている。
- 副座長 スターバックスなどうるさい環境で勉強している人が多い。ALAの前会長は、明治大学での講演会で、スターバックスが勉強の形を変え、図書館と音の問題、その価値観を変えたといっている。
- 委員 使いたい人は電源とWifiがあるかないかで選んでいる。スタバはサードプレイスという考え方を取り入れた。ラーニングコモンズの中にはサードプレイス的なことも少し含んでいる。
- 委員 ラーニングコモンズの画期的なことは、しゃべっていいということと、グループを前提にしておき、今までの図書館と違うところ。世代を超えて保障する場所とするならば、静かな場所も絶対に必要。
- 座長 では、児童・YA サービスについては、どうか。
- 副座長 滞在型サービスが抜けているのではないか。
- 委員 ひと箱本棚が、成人サービスに入っているが、そうではなく、その他に入る。
- 座長 次に、レファレンスサービスにはいる。
- 委員 具体的なイメージが湧かない。例えば自分が講演する時に、どういう資料があるのか具体的に相談にのってもらえるのか。レファレンスサービスを受けたいというニーズがあるのか。
- 館長 アンケートでは、図書館員に聞くレファレンスサービスは10%、図書館の資料を自分で調べるセルフレファレンスは15%の人が関わっている。具体的には、何を知りたいのかを図書館が汲み取り、どのような内容で、どのくらい詳しく、いつまでの期限で必要かということインタビューのなかで聞き取り調べていく。時間のかかるものもあれば、即答できるものもある。
- 座長 それぞれの分野の専門家ではないので、必要とするテーマに対する資料を探して提供する。
- 委員 レファレンスサービスという名称にこだわる必要があるのか。市民にわかりやすいかどうかを考えるならば、もう少しわかりやすい言い方があるのではないか。
- 館長 調べもののお手伝いをしますということもある。
- 委員 調べもののお手伝いといわれた瞬間に、調べものの範囲が狭くなるような気がする。わからない事があった時に、もっと詳しく知ることができる資料があるのかを聞きたい。
- 委員 レファレンスという言葉が市民権を持っていればいいが。市民がレファレンスと書いた所へ行き、何かを聞いて、そこから回答を得るといったイメージがないのではないか。
- 座長 アメリカから入ってきたサービスなので、昔は「レファレンス」を訳して「参考事務」とか「参考調査」とかいていた。
- 委員 日本語でわかりやすい言葉はないのか。
- 館長 参考業務という言い方もしている。
- 副座長 行政の中でレファレンスという言葉を使った時に、何だかわからないと言われ、レファレンスという言葉を使わず、「調査研究の援助」といっていた。
- 座長 東京都立図書館の司書であった斉藤文夫氏は、「探し物・調べもの、お手伝いをします」といっていた。
- 委員 図書館の業務としては、レファレンスでもいいが、市民へのわかりやすい説明としては別の名称の方がいい。
- 副座長 図書館協議会の報告では、レファレンスという言葉は使っていない。
- 委員 図書館を通じて調べることができるサービスだということは伝えていくべき。
- 副座長 どうやって敷居を低くして、聞きやすい体制を作るかが問題。ハード面で行けば、立派なレファレンスカウンターでなくても、利用者が聞きやすいスペースや人の対応の確保が大事。
- 委員 立って対応する形もあるし、利用者と同じ向きで行う勾玉型レファレンスデスクというのもある。

る。

- 委員 お金をかけずに行うならば、机を置かずに腕章をつけて、フロアー内を歩いていると、ちょっとしたことでも気軽に聞きやすくなる。
- 委員 西東京市の図書館は、カウンターに行くと、「お伺いしていますか？」という声かけがあり聞きやすいが、カウンターに行かないと聞けない。カウンターに行きづらい人にとってもフロアーでなら聞きやすい。
- 委員 課題解決支援も、成人サービスだけでなく、レファレンスとしての能動的なサービスが適切と思う。サービス全体の企画をするということがありうると思う。
- 館長 課題可決支援は、コーナーを作り、図書館から発信している。利用者が自分で見るコーナーの設置とそれに対するレファレンスによる支援の両方が必要。
- 委員 ビジネス支援とか法律情報支援とか、資料を買って揃えるだけでは意味がない。全体のサービスの企画をする窓口として、レファレンスの機能も重要。例えば、選書する際、限られたスペースにどれだけの資料をそろえるか、一般書の資料とレファレンスの資料をどのように住み分けられるかが非常に重要。ビジネス支援等は、活動が問題であり、本があればいいという問題ではない。そのようなことを考える企画のセクションを設けるのであれば別だが、レファレンスの業務の一つとして考えた方がわかりやすい。
- 館長 利用者とのアプローチを考えるという意味では、図書館用語で言うと読書案内サービス、資料情報サービスといったインフォメーションを含めたものか。
- 委員 資料を選んで並べるだけでは物足りない。すくなくともデータベースを使うとか、外部組織と連携するとかいったことを考えないと課題解決支援にはならない。
- 副座長 健康医療情報支援などは地域資料との関係もある。市内の病院の情報提供も必要。
- 座長 本格的にやろうとすると、場所もお金も人も必要である。どこまでするかは難しい問題。
- 館長 資料の提供とともに資料の保存スペースも必要。
- 委員 前回、マンガについてはスペースも含めて取り扱いが難しいという説明があったが、そのような理由でだめというのでは将来計画を話し合う意味がない。必要かどうかをきちんと検討して、その結果どうするかを決めればよい。
- 座長 中央図書館のレファレンスコーナーをみてきたが、資料の見直しも必要かと思う。資料の充実も入れておいた方がいい。
- 委員 データベースについても、今十分に使えていれば問題ないが、データベースを活用できるようなスペースも必要。
- 館長 国立国会図書館のデータベースの活用講座も実施している。
- 委員 情報検索用のパソコンとデータベース用のパソコンと分けることができていない。
- 委員 スペースがないので、資料が十分に活用できていないのではないか。
- 座長 次に、地域・行政サービスについて検討する。
- 副座長 世田谷区の視察でもしたが、役所の各部署の出版物の納本について、制度化・条例化されるとういのだが。
- 委員 自治体内の資料は集めやすいが東京都発行の資料は集めにくい。日野市では、庁内の各部署との交流があったので、集めやすかった。
- 委員 情報公開コーナーと地域行政サービスとの関わりはどうなっているのか。
- 副座長 冊子にならない庁内情報、議員のホームページ情報など、10年すると全く変わってしまう。地域の会社のホームページ情報も何年かすると、変わってしまう。許可の問題もあるが、そのようなデジタル情報を集めるのは図書館しかない。1年に1度は保存するか、ホームページのダウンロードを行えば、図書館の地域資料となりうる。
- 委員 最近「地域資源」という言い方をするが、それも地域資料サービスに入るのであれば、地域資源という言葉もキーワードとして入れるといい。
- 委員 課題部分に定点観測とあるが、「公民館だより」では、現在の撮影を行っている。また、ワンショット○○記録の撮影方法もあるので、定点観測に利用できるのではないか。
- 座長 議会図書室との連携とあるが、議会図書室は地方自治法で設置が義務付けられている。
- 委員 課題解決支援の一環として、議員支援を通じて連携して何かできないかと思う。
- 委員 日野市には市政図書室があり、新人職員はそこへ行って研修を行う。
- 副座長 議員支援までを入れるかどうか。
- 座長 次にハンディキャップサービスに移る。
- 委員 ハンディキャップサービスには、ハード面のバリアフリー化が載っていない。まずは、ハード

面でのバリアフリーが達成されていないと、ハンディキャップサービスをやっているとはいえない。

- 副座長 今までの議論をふまえると、ハンディキャップサービスからユニバーサルサービスという名称に変えることはできない。ユニバーサルの議論からすると、かなり範囲が広がるので、ユニバーサルではない言葉で示した方がいいのではないかと。
- 委員 理念としてユニバーサルの精神があり、その上で色々なサービスがあり、その一つとしてハンディキャップサービスと言っている。言葉だけを追い求めていると大事なことが見えなくなってしまう。名称については事務局で考えてもらったかどうか。
- 副座長 どこかにユニバーサルサービス・ユニバーサルデザインを基本理念として入れていることを入れてもらえたらいいのではないかと。
- 委員 ユニバーサルのイメージは、ハード面とソフト面の両方の側面があり、バリアフリーはハード面だけを意識しているようなイメージ。ハンディキャップサービスがどちらをさしているのかはわからない。外国人に対する共生サービスも含めなければいけない。
- 委員 障害をどう捉えるか。障害の概念も発達障害・精神障害と広がってきている。従来のハンディキャップサービスの枠では捉えきれないかもしれない。認知症の問題も視野を広げていくべきだろう。名称を変えるということよりは、方向性として広い内容を考えていけるような形にしたい。
- 委員 デイジーも何なのかわかりにくい。
- 副座長 まとめるときに、注をつけるといい。
- 座長 その他、全般について何かありますか。
- 委員 FreeWifiは、入っているのか。
- 副館長 駅前4館には、入っている。
- 委員 他の自治体では、市民と図書館の連携で「図書館友の会」があるが西東京市にはない。図書館と市民との連携という道も模索したらどうか。
- 副座長 図書館友の会は、行政が作るというよりは、市民が図書館を応援していくためのもの。
- 委員 市民から自発的に声を上げるのは難しい。最初は図書館が講座等を行って、そのOB会として立ち上げていければいい。
- 座長 地域文庫・家庭文庫などとの関わりや支援も必要。
- 委員 文庫は子どもだけのものなので、一般も含めて、市民の読書活動支援としたほうがいい。
- 座長 図書館協議会もあげておきたい。
- 事務局（補足）素案について、現計画に沿ってサービス対象ごとに検討しているが、他の図書館のまとめ方の方がわかりやすいことなどから、再度検討する。
- 副座長 ある講演会の際に、成人サービスという名称がよくわからないという話があった。一般の人に伝わりにくい言葉ではなく、一般サービスとかの方がわかりやすい。
- 事務局（補足）ユニバーサルの考え方からも、一般の人にわかりやすい言葉を使うように調整する
- 委員 言葉は大事だと思う。住民に伝える場合にも言葉を大事にしてもらいたい。
- 座長 議論のあった言葉は検討して、わかりやすい言葉に変えていく。
- 館長 そのほか、追加の意見を用紙に記入して出していただき、まとめていく。
- 座長 今後の予定について、確認したい。
- 館長 次回までに再度、素案を提示する。

第3 その他

特になし。

次回 8月21日(火) 15:00から 中央図書館会議室